2部

現場（フィールド）から現場（フィールド）へ

社会福祉学科

OB MESSAGE

光明を見出す

通信教育部社会福祉学科卒業生　**福田　潤**

はじめに

私は今年の３月に通信教育部社会福祉学科を卒業し、社会福祉士に合格することができました。2015年に入学し、2022年に卒業したため、かなり粘って卒業ができた形となります。勉強時間の捻出どころか、勉強そのものが難しくなる状況でなんとか乗り切ったというのが正直なところです。

仕事をしながら学ぶことはとても難しいことでした。しかし、社会福祉士としてこれからも学び続けていくうえでは、考え方や技術も生み出すことができたと思っています。

これから記述する内容は、窮地の中で光明を見出したいくつかの方法と考え方です。窮地はある日突然やってきますし、予測していても回避ができないものもあります。学習を進めるうえでの考え方や方法の一つとして受け取っていただければと思います。

学習時間の確保と学習方法

最も大変な時期に、机に向かった学習時間は平日に30分程度、休日に１時間程度で１週間に３～５時間でした。余裕がある時期は平日に２時間、休日に２時間程度でした。余裕があっても疲労が溜まりやすいので、頭に入らないときは諦めて睡眠を取りました。

学習時間にはレポート課題集の『在宅学習15のポイント』を参照し、テーマと学習内容、学びのポイントを確認したうえでテキストと参考文献を読み込みました。無理に頑張らず、疲れたと感じたらすぐにやめまし

た。

インプットの時間が短いため、どこかで学習を深める必要がありました。生活や仕事で学習内容を紐づけして復習の機会を増やす方法が有効でした。病院に行ったときには保健医療の内容を思い出し、転職したときには雇用保険などの社会保障の学習が捗(はかどり)ました。友人からの相談を受けたときも、面談技法を実践していました。学習の時間を「机に向かってインプットする」ことに限ると捻出は難しくなりますが、学習したことを思い出したり、関連することに興味を持って調べたりすることも学習時間に入れてしまう考え方もあると思います。「できていない」と思って焦る方にはオススメです、私はそうでした。

レポートの作成においては、レポート課題集の『アドバイス』の内容を一度書き写したあと、必要そうな内容をテキストから抜き出し、構成を考える段階を設けていました。箇条書きをつくるだけでも「少し進んでいる」といった感覚が生まれるのでオススメです。箇条書きを書いた後に1週間ほどレポートのことを考えて、休みの日に一気に書き上げる方法を取っていました。仕上がった物が納得いかないときもありましたが、「もらったフィードバックを元にさらに学習を進めよう」と考えて、提出を優先しました。

多忙な状況で学習をしていくうえで重要だと感じたのは「心身の健康」「学ぶ環境」「心身を害さない達成可能な計画」です。どれかが欠けている心当たりがあるのであれば、それについて考える時間を作ることをオススメしたいです。

国家試験対策

国家試験対策を開始したのは、試験の2ヶ月前の12月の頭からでした。10月の下旬まで実習に参加し、11月は国家試験に取り組むための環境づく

りをしていました。

試験対策は模擬小テスト、国家試験対策講義、中央法規の模試、過去問解説集を活用しました。国家試験対策講義でとにかく過去問を解くようにアドバイスがあったので、ひたすら過去問を解きました。模試は学習がある程度進んだ１月に取り組み、苦手科目の洗い出しとマークシートを塗る練習に活用しました。

過去問は最初に３年分450問の正答の理解、中盤は３年分の全選択肢1350項目の説明をおおまかに記述して解答、後半は３年分を科目別に回答して出題傾向を確認、といった流れで進めました。どうしても暗記が難しかった人名に関してはノートを作成しましたが、勉強時間のほぼすべてを過去問の解答に費やしました。

国家試験の二日前に、国家試験対策講義を確認し、見落としていた内容がなかったか確認をしました。最後に、試験前に確認する資料を作成しました。会場まで持ち込んだ資料の中で実際に活躍したのは、何回解いても理解が浅いままだった問題の解説をまとめたものと、国家試験対策講義の資料でした。

仕事との関連

通信教育部の入学当初から、発達障害にかかわる仕事に携わっています。

現在勤めている法人では、ご本人とご家族の将来の生活を一緒に考えて行くことを重要視しています。そのため、利用者の方との面談やご家族の方とエコマップを作成することを日々取り組んでいます。また、NPO法人として活動を行っているため、社会問題をどのように捉えるか、解決を法人としてどのように取り組んでいくかについて、よくミーティングで話し合います。法人は在学中に立ち上げに参加していたため、取り組んでい

る内容は社会福祉学科に在籍して学んだ内容が反映されています。

学んだ内容が活かされる領域は多岐に渡り、利用者の方からの相談、利用者の家族からの相談、多機関連携を意識した日々の支援の記録、記録の統計、虐待防止のための組織体制などがすぐに思いつく内容となります。

終わりに

私には障害を持つ兄弟姉妹が二人います、私と家族が直面している問題は「親亡き後」であり、私が仕事上で関わるすべての家族が不安に思う社会問題です。社会福祉士として、現在関わっていきたい事はこの問題で、学齢期からできることが無いか模索しています。ようやく、問題に関わっていく基礎的な力を身に着けたと感じられるようになりました。長い道のりでしたが、全て力になりました。

どのような形でも、学習したことは力になり、やがて自信になるはずです。

在学中の皆さんの、実現したい未来に向かおうとする姿を、陰ながら応援しています。